

【患部・主訴】には、皮疹の現症を記載する。

1) どこに

2) 自覚症状(痒みを伴う, 痛み=自発痛 or 圧痛を伴う, 知覚過敏, 知覚鈍麻

3) 経過(急激に拡大, 最近発症, 大きさの変化のない, 出没を繰り返す=軽快時に色素沈着を残すか……など)

4) 大きさ

炎症性疾患の場合: なじみのある物の大きさに例える
(帽針頭大, 半米粒大, 米粒大, 小豆大, 爪甲大, 小指頭大, 母指頭大, 胡桃大, 鶏卵大, 手拳大, 手掌大, 小児頭大……など) 鷲鳥の卵の大きさってどれくらい?

腫瘍性の場合: 大きさを mm 単位で計る
(長径 x 短径, 必要あれば, 高さ)

5) 皮疹の形状(円形, 楕円形, 多角形, 不正形, 地図状, 線状, 網状, 蛇行状……など, 境界は明瞭 or 不明瞭)

6) 隆起の状態(扁平, ドーム状, 半球状, 有茎性, 堤防状, 臍窩状……など)

7) 表面の性状(平滑, 粗造, 尖圭状, 疣状, 乳頭状, 顆粒状, 蛎殻状, 光沢性, 萎縮性, ……乾いた, 浸出液を伴う, 落屑を伴う, 易出血性, 壊死性……など)

8) 色調

9) 硬度(軟らかい, 硬い, 弾性, 浸潤を触れる, 波動を触れる, 可動性=皮膚とは and 皮下とは……など)

10) 配列(限局する, 播種状, 集簇する, 局面を形成する, びまん性, 遠心性, 連珠状, 連圈状, 蛇行状, 列序性……など)

11) 種類(斑, 丘疹, 結節……など, 原発疹と続発疹)

原発疹:

紅斑, 紫斑, 色素斑, 白斑, 丘疹, 結節・腫瘤, 水疱, 膿疱, 囊腫, 膨疹(蕁麻疹)

続発疹:

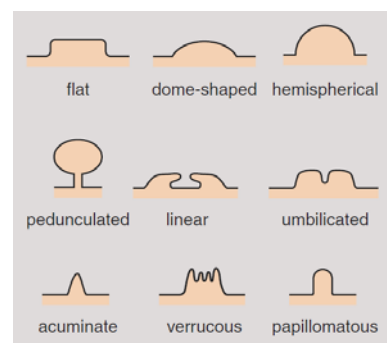
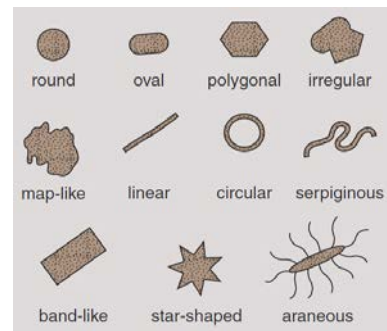
萎縮, 鱗屑, 痂皮, 胼胝, 鶏眼, 癬痕・ケロイド, 表皮剥離, びらん, 潰瘍, 亀裂

【この欄外に, 内服・投与中の薬剤を記載する 手術症例でも】

【この欄への記入は不要】

家族歴	既往歴
患部・主訴 【どこに, どんな皮疹があるのか? 現症を記載する】	
現病歴	
【患者さんの言ったことをそのまま記載するのではなく, 必要な情報を尋ねて, その応えを順序良く記載していく。 下書きはせずに。 薬疹を疑う場合は, 経過図を書く】	
【必ず問診をとった者の名前】	

千葉大学医学部附属病院皮膚科



粘膜疹：アフタ，白板症

隆起を主とする病変：苔癬，苔癬化，局面，乳頭腫，コンジローム

毛包と関連する病変：ざ瘡，面皰，毛瘡

色調変化を主体する：紅皮症，黒皮症，網状皮斑

水疱・膿疱を混じる：疱疹，天疱瘡，膿痂疹

角層の変化を主体に：秕糠疹，乾皮症，魚鱗癬

その他：多形皮膚萎縮（ポキロデルマ），硬化，脂漏，脱毛症，掻痒症

まず，教科書の目次を覚えよう！

その上で，目の前の患者さんが目次のどの章にあたる疾患であるかを考える。

実習中は常に教科書を携帯し，自分の知識を確認すること！

湿疹・皮膚炎

蕁麻疹・痒疹・皮膚掻痒症

紅斑・紅皮症

薬疹

血管炎・紫斑・その他の脈管疾患

膠原病および類縁疾患

物理化学的皮膚障害・光線過敏症

水疱症・膿疱症

角化症

色素異常症

代謝異常症

真皮，皮下脂肪組織の疾患

付属器疾患

母斑と神経皮膚症候群

皮膚の良性腫瘍

皮膚の悪性腫瘍・悪性黒色腫

感染症（ウイルス，細菌，真菌，抗酸菌，性感染症，昆虫・原虫）